

## 放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 22 年 9 月 14 日(火) 19:30～20:15
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 あまみエフエム階下 ASIVI にて
- 3 出席委員 委員総数 8 名 出席委員数 6 名 欠席委員数 2 名

出席委員の氏名

水間 忠秀／濱田 百合子／宇都宮 英之／寿 浩義／再田 美紀／築地 理昇

欠席委員の氏名

北之園 千春／久岡 久乃

放送事業者側出席者名

麓 憲吾／丸田 泰史／中原 優子／小野 健太郎／沖元 眞実／元井 庸介／  
米澤 恵美子／盛島 拓史／宮田 愛／金城 よしの

### 4 議題

番組内容の審議(「なちかしゃ みくいぬ ちゅんなまうがでい」について)

### 5 議事の概要

- (1) 番組内容の審議(「なちかしゃ みくいぬ ちゅんなまうがでい」について)
- (2) 次回の審議議題について
- (3) その他意見などについて

### 6 審議内容

- (1) 番組内容の審議(「なちかしゃ みくいぬ ちゅんなまうがでい」について)

一放送局 丸田より、審議会への出席のお礼、新入社員(金城よしの)の紹介、出席委員数が6名、欠席委員数が2名、再田委員が後ほど参加することが連絡された。

#### 水間議長

それでは早速番組内容の審議ということで、「なちかしゃ みくいぬ ちゅんなまうがでい」についてのご意見を、寿委員からお願いします。

#### 寿委員

感想になりますが、聞いていて楽しい番組だし、司会進行の一人を知っているなのでその声を聞いているだけで楽しめました。ゲストとの掛け合いが、いい雰囲気であり、また、ゲストの情報をいろいろと聞き出せているなど。何も考えなくてもいいというか、そのまま聞ける楽しい番組。ゲストも含めて、知識がほとんど無くともすらすらと頭に入り、聞き入ったという感じでした。聞いて、今後どうしたほうがいいのか、何か言わないと思ったのですが、とにかく聞いて楽しんでしまいました。

## 築地委員

私も楽しく聞かせてもらいました。強いて言えば、あと2曲ぐらいシマ唄があってもいいかなと思いました。また、ゲスト出演された西和美さんにしても、前田和郎さんにしても、今活躍している人ばかり出演しているけれど、もうちょっと年配で、隠れた人もいるのではないかと思います。そういう方も出していただいて、そういう人は、いろんなポケットを持っていて、色んな唄を知っていると思うので、そういうところを掘り出していけるとすごくいいかなと。今は亡き里国隆さんや南政五郎さんとか、彼らにもスポットを当てていただいて、里国隆さんと一緒に唄を歌った人などが沢山おられると思うし、そのときのエピソードなども沢山あると思うので、そういう方々を呼んできて、国隆うじのシマ唄を流したりとか。そういうのも楽しいかなと。

あと、色んな唄者がいるけれども、音源が、CD化までされていない方の唄もあると思いますので、カセットテープだけでかろうじて残っているなどの、そういう歌も聴けたらいいなと思いました。

## 濱田副議長

私も楽しませていただきました。シマ唄だけでなく、それにまつわるエピソードがそういうことだったんだ、とか、思わぬ情報をいろいろときかせていただいて、とても勉強になりました。ゲスト出演の西さんには以前取材させていただいたこともあったのでなんとなくわかるのですが、前田さんはとても早口ですよね。今回のようにCDで聞かせていただくに戻して確認などできるのですが、ラジオではそれができないですよね。一緒に盛り上がるだけでなく、「ここは！」というところは復唱していただくとか、相槌をうっていただく、耳に残るかな、と思うのですが。例えばゲストの方は帰っていただいたあとに、その場の盛り上がりはとりあえず置いておいて、あれはすごいよね〜とかおさらいがてら、あとで印象を残していくって言う形もいいかなと。知っている人は知っている情報なのでしょうけれど、知らないことをば〜っと耳で聞いても、ちょっと待って、今なんて言いました？ということは、今ラジオではできないので。

(水間議長) 逆でも面白いかもしれないですね。収録だから、この後流れる放送の中で、この時のここが面白かったですよ、注意して聞いてくださいね、というトークがあって、実際の収録が流れれば、そっか、ここを注意して聞けばいいんだなとわかるというか。

## 濱田副議長

彼らが楽しんで、私たちも楽しんだのですが、楽しんだあとにもう一回、ちょっと確認するというか。

あと、もっと知っている方は・・・と連絡先のメールアドレスを案内していたのですが、年配の方は、わからないと思うんですよ。ファックスでもわからない。そこですぐ反応してメールを返してくる人というのは、パソコンもって近くでやっている人で、まず、昔の唄を知ってらっしゃる年配の方ではないですよ。そういう方々には、ひとこと電話番号でも案内していただけるといいかと。

それと、先ほど築地さんもおっしゃったとおり、今活躍をされている方、名前の知られている方だけではなくて、人づてというか、この集落ではこの人結構知られているよ、っていう方いますよね？この間も、女の方で、「この人がいないと始まらないのよ」、っていう方がおられたんです。一般的にはあまり知られていない方だと思うんですよ。ゲスト出演された前田さんはいろんなところで意欲的に活動されていますが、聞き出していくという、そういった形もほしいなと。「自分から出たい」という人達ではない所に埋もれているものって結構あるかもしれないと。他にどういう方がこられたんですか？

今までは、結構有名な人しかまだ出ていないです。初めのコンセプトではやっぱり、隠れた唄者さんを出したいね、と言っていたのですが、まだそうでできていないところです。二人も唄者なので、「あの人に聞きたい」と思う方については、当初の予定では、「有名な人はすぐにネタがつきて隠れ唄者に移っていく」と思っていたのですが、実際には、自分の周りにも話を聞いたことがない方が予想以上にたくさんいて、という状況です。意識的にそちらのほうも狙っていかないと、もうちょっと先になってしまうかもしれないと思いました。そこは考えていきたいと思えます。

## 濱田副議長

前回にも言いましたが、お越しいただくことが不可能な場合は、一時間ずっとではなく少しの間だけ、たとえば10分ぐらい収録して、お話を少し伺ってということでもいいのでは。番組の目的は、知らない歌を掘り起こすということかもしれないのですが、エピソードがとても面白かったのです。私の作っているホライズンという雑誌でも西和美さんと築地俊造さん、坪山豊さん里国隆さんの3回ぐらい連続で特集を組んだことがあるのですが、その生き様というか、唄にかける思いとかを聞くだけでもとても面白かったんですよ。

## 一放送局 元井

こちら、やはり、皆でゆらって唄アシビしていたころの原風景みたいなものの、その感覚が知りたいという欲求がすごく強くて。もともと、島唄ってどんなものだったんだろうというか、舞台化される前だとかは、もっと生活の中にあるものだったというような話を聞くのが、すごく楽しみだったりとか。そこはパーソナリティーの二人も意識的に聞くようにしていると思えます

## 濱田副議長

対知広夫さんみたいな、育ててきた人というか、大笠利の方のお話を聞いたことがあるのですが、育てた人たちへのクローズアップの仕方っていうのも面白いなと思いました。築地俊造さんにも、もっとああいう人たちにスポットライト当てるようにしてよ、と言われたんですよ。

喜界の安田宝英さんのように、(もうお話をきくのは難しくなっているかとも思うのですが、)子ども唄者というか、今の青年唄者を育ててきた人なんかの話や、もう亡くなられましたが、元ちとせさんを育てられた、瀬戸内の中野豊成さんですか。あの方のお話も、奥さんから聞いたことあるのですが、ほんとびっくりするぐらいのエピソードを聞いて、放送して、それを文書に残しておくとか、沖縄の、黄金(くがね)言葉とかあるじゃないですか、ああいうのができたら、島もおもしろいなと。

## 宇都宮委員

ぱ〜っと2枚聞いて、ラジオの番組の域を超えているのではないかと。イメージも面白さも。(築地さんの)おっしゃるように音楽をもう少し差し込んでいったら、テレビのバラエティ番組のよう。3人が話しているところを見てみたくなる。どうしてもラジオっていうとBGM的に、車で走りながら、仕事で作業しながら、聞きながしがちなのですが、聞いていると、どんどんもそっちに意識がいつてしまうんですよ。有名な人を追いかける感じですが、まだ夢をいうのであれば隠れた方、あの集落、この集落の方を、有名でなくていいから、30分バージョンや15分バージョンとかで、たくさんやってくれんかなあと。とにかくあの二人の会話はおもしろい。見てみたいなと思いました。

## 再田委員

感想のようになってしまうのですが、とても興味深い番組でした。知らないこともいっぱいありますし、パーソナリティーのお二人のお話がなによりおもしろい中に、そういうシマ唄の話題で、どんどんひきこまれていきました。唄者の隠れたエピソードもそうですが、これから、この達人さんたちのお話をききながら、私たちもどうやったらシマ唄の世界に入っていけるかというか、今はなんか、「シマ唄は見るもの」というか、隣で唄っているというより、あこがれの達人さんたちがステージの上で唄っているというような、外から見上げるような世界になってしまっているもので、もうちょっと、気軽に気さくにできる場が、このコーナーをとおしてでも、別の企画でもいいのですが、もうちょっと身近な存在に徐々に近づいていけるような、そんな企画があればいいなと思いました。パーソナリティーのお二人がすごく身近な存在に感じるので、そことなんとかしてつなぐ、そんな企画があったら、もっと楽しんでシマ唄を広めていけるのではないかと思います。

あと、これはシマ唄の世界なのでちょっとちがうのかもしれませんが、初回の審議のときに、築地さんがおっしゃったと思うのですが、八月踊りもシマ唄もそうですが、五、七、五みたいなリズムがあるじゃないですか。(八、八、八、五ですとの声があがる)八、八、八、五の面白い短歌のようなものを募集して、それを唄者の方に唄っていただいたりすると楽しいかなと。伝統的なものを残しつつ、新しいものを交えながら残していくことのほうが、そこにもまた興味を持つ人の中からファンを取り込んでいけたりして、いいのではないかなと思います。

自分たちで詩は作れても、なかなか唄は唄えない人が多いのではと思うので、そこから親しみを受けて、入り込める人がいるのではないかと。番組は完成されているものなので、次の展開に、という時に、違う広がりを持つてたらいいいのかなと思いました。とても好きな番組のひとつです。以上です。

## 水間議長

今日欠席の久岡さんからメールで意見をいただいているのでここで読み上げますね。

———久岡委員メールより

企画自体はとても素晴らしいと思いました。そのまま、資料として保存する価値がきっとあると思います。

何度も繰り返し聞いて、聞けば聞くほど「おもしろい！」と感じますが、これを「ラジオ」というメディアに載せるにはまだまだ改善の余地があるかと思います。

まずは、やはり話の内容がマニアックに偏りがちになるということ。「好きで」「興味があって」聞く人には、面白いかもしれませんが、ラジオを「聞き流す」人たちにとっては、興味がわくような感じではないと思います。1時間という時間も長いし、話も取りとめのない雑談にしか聞こえないと思います。「茶飲み話」的な雰囲気という制作側の意図はわかりますが、単に「内輪話で盛り上がってる」感は否めません。多くのリスナーを惹きつけるには、もう少し工夫も必要ではないでしょうか。

例えば1時間の番組なら、もう少しコーナーを設けるなどして、リスナーの耳を休憩させる。トークの後にはパーソナリティーが振り返って解説を付ける。等々。もしくは1回の放送時間を短くして数回に分けて放送するか・・・

また最初に言ったように「繰り返し聞いて」面白さがわかったのですが、ラジオの特性は「聞き流し」なので、トーク番組ではパーソナリティーの誘導や解説を入れる等のメリハリがかなり重要だと感じました。

最後になりますが、この番組が島唄の底辺を広げるきっかけとして、色濃いものになっていくことを期待しています。

## 水間議長

私のほうからの感想ですが、時間がなかなか取れず、飛ばし飛ばしで、全体をきっちりきけなかったのですが、番組自体はすごくいい番組だと思います。パーソナリティーのふたりが、本人たちが唄者の話いろいろ聞きたいんだなということが伝わる番組だなと。あと、他の部分で気になったのが、ずっと機織の箒の音が入っていますよね。最初だけかなと思ったのですがずっと入っていたので、途中からすごく耳障りで、あれはいらないなと思いました。パソコンがおかしくなったのかなと。よく聞いていたら、箒を交差させる音だったんですけど。あれはオープニングコールから話の導入ぐらいまででやめたほうがいいのではないかと思います。それと、二人が歌い始める直前に、わざとチューニングをあわすみたいな、音をぶらしていませんか？あれもちょっとやりすぎかなと。録音間違ったのかな、テープ緩んでるのかなと。凝っているのはわかるのだけれども、ちょっと凝りすぎかなと。二人の歌声ではじまるので十分かなと思いました。

私はそれくらいかと思ったのですが、久岡さんの意見や、皆さんの意見を伺った中で付け足しですが、私も、個人的に西和美さんのお店でいろんな唄者の方々と話をさせてもらったりしているので、その店で唄者の方と話しているのと同じ感覚で聞けました。すごくよかったです。たぶん久岡さんがおっしゃるように、そういった感覚がわからない人には、単なる内輪話にしかきこえないのかなと思いました。

唄者を取り上げたい気持ちはわかるのですが、たぶんリスナーの方にしてみれば唄者以前に、どんな唄があるのか、元唄の意味すらよくわからない方が多いのではないかと思いますので、それをこの唄者の話の中で掘り下げるといのはちょっと無理があるのではないかと、唄者についての話と、シマ唄の解説と、どっち就かずになる。これは月一回の放送なので、できればもう一回の枠などで、隠れた音源という話もあったのですが、今手に入るCDからでも、ジャバラレーベルやセントラル楽器で売っているCDを、何回かに分けて、このCDに入っている、この方のこの曲は、タイトルはこうだけれども唄われる歌詞の内容はこうで、実は元唄としてはこういう意味があるのだけれど、というようなものがワンクッションとしてあるといいのではないのか。そうすると、その唄がわかって、そういう唄を唄っている人はどんな人か、と、つながっていくのでは。今は、それがいきなりディープに入っている気がする。パーソナリティーの二人がこの番組の中ですか、それとも別の企画でも。ディの番組の中でそういった、解説のコーナーというものがないなと思いますし。単に流れているだけで、もう少し、次のステップとして考えてほしいなと思いました。

## 寿 委員

自分が楽しく聞けたというのは、自分は特にシマ唄はそんなにわからないわけだけでも、自分が聞きたいような内容を聞き出してくれて、その会話が聞こえるというのが楽しいけれども、シマ唄を好きな人はもっと掘り下げてほしいと思うし、シマ唄をそんなに突っ込んでいない人からすると、この番組というか、内輪でいろいろ聞いているみたいなそんなのが情報として入ってくるのかも。考えなくても耳に入ってくるので、自分としたら、この形態があっているのだけれど。シマ唄関係者として聞くと、どっちつかずになってしまうのだろうし、またそれはどっちを取るか、ということにもなると思う。

## 水間議長

この番組はこの番組でいいと思うのですが、久岡さんが言うようにマニアックとを感じる人がわかるようにはどうすればいいかということでワンクッションあってもいいかなと。

## その他意見

- ・ 内輪話とは思わなかったけれども、早口すぎて耳が追いつかなかったので、話のペースを調整するなり、最後にみんなでまとめるなりしてほしい
- ・ 来月の予告などを入れて、ゲストへの質問などを募集してもよいのではないか。この番組内で次回予告でなくとも、他の番組などで、なちかしゃ〜のゲストが決まりましたので、という告知で、質問を募集してもいいのではないか。
- ・ シマ唄の解説云々となると、偏る可能性がでてくるので、難しい。
- ・ 八月踊りで唄われている唄で、どんどん風化していついなくなるものがあると思う。CDに残ってなくて、歌われている八月踊りの音源を、いい歌詞もたくさんあるので記録として残していけたらいいと思います。
- ・ 昔のシマ唄はテンポが速かったらしいですね。それが舞台唄になってどんどん聞かせるためにゆっくりになってきた。そういう昔の歌と今の歌い方の違いを比べてみてもいいのではないか。
- ・ 月一回というのがせめて月に2回ぐらいあるといいなと思います。一時間でなくて、もう少し短くてもよいので。あと、再放送がもう一回ぐらいあってもよいと思う。
- ・ 著作権のことなどの問題もあるかとおもいますが、これをインターネットで聞きたい人が結構いると思います。

### 一放送局 元井より補足

- ・ 僕自身も、シマ唄についてはパーソナリティの2人より知識が少ないので、打ち合わせの段階で、質問を加えてもらったり、放送中にも質問したりしています。とはいえ話の腰を折りたくないし、そのあたりのことを考えながらバランスを取っているつもりです。
- ・ 番組の中で、今月の一曲として、ゲストの好きな曲を紹介して、掘り下げるまではいかないまでも、2人が、歌い方の違いなどの軽い説明はしています。

### (2) 次回の審議議題について

一放送局 丸田より、次回の審議内容について「夕方フレンド」であることが報告された。

### (3) その他意見などについて

とくに意見等は出なかった。

## 7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

## 8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成 22 年 9 月 18 日(土曜日)17:30-「ゆふいニング・アワー」番組内で放送
- ② 書面の備置き:平成 22 年 9 月 18 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成 22 年 9 月 18 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

## 9 その他の参考事項 なし